

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東京大学	整理番号	1805
プログラム名称	生命科学技術 国際卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	岡部 繁男	プログラムコーディネーター	吉川 雅英

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、医・工・薬・理を含む様々な分野からの優秀な学生を獲得し、多彩な学術分野からの教員陣のサポートにより、学生の専門能力を高める一方で俯瞰力及び展開力を養うための学習環境が整備されている。成果も多く実績も上がっている。今後、大学院改革につながるような、新たな融合領域の教育・研究成果が期待される。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、優秀な学生は、プログラムの仕組みをよく活用して多くの原著論文執筆や学会発表を行い、研究の幅を広げ、将来の研究・就職活動に活かしている。一方、経済的支援以外にメリットを感じていないケースも散見される。このような学生に対しても、通常の博士課程では得られない幅広い知識・経験の習得、専門性や独創力を涵養するような教育が望まれる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、プログラム生には、メンター教員、プログラム専従事務局や各研究科の実務教員が、カリキュラムの履修をサポートする体制となっている。ただ、学生の率先性・積極性だけに期待するのではなく、プログラム全体として学生のサポート体制の改善が必要と考えられる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、医薬工理系の大きな募集対象の中で、優秀な学生が獲得できている。しかし、留学生やより広いバックグラウンドをもつ学生の獲得方法については工夫の余地がある。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、複数の審査員によるQEに加えて、修了審査は、英語による研究内容の発表を行い、高いレベルの審査を実施している。また、大学内での17部局で構成されている生命科学ネットワークで、学生に自分の研究を</p>

発表する機会を設けている。

事業の継続・発展については、学長中心の大学改革構想の中で、特に経済的なマネジメントが充実している。